

2025年8月発行

安房普及だより

〒294-0045 千葉県館山市北条402-1 TEL:0470-22-8132 FAX:0470-22-0097

ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-awa/awa/fukyuudayori.html>

発行：千葉県安房農業事務所改良普及課・安房農林業振興協議会普及事業部会



レモン収穫作業



トマトの片付け



鴨川七里[®]苗の植付



ユズ収穫研修の様子

近年の農業では、農業者や雇用者の高齢化により労働力の確保が困難になりつつあります。そこで、安房農業事務所では雇用導入に関する研修会や省力化技術等を紹介してきましたが、その他にも鴨川市で「アグリサポーターセミナー」を開催しています。このセミナーは援農に興味のある移住者や定年帰農者等を対象に、農業者のもとで実際の農作業を学ぶことにより地域農業を支える人材を育成することを目的としています。

昨年度は、参加者のうち5名が、研修先のほ場で延べ16人の援農作業を行いました。こうした取組を強化し、将来的には安房地域全体に波及するよう引き続き活動していきます。

安房地域の生産者を支える援農隊の育成に向けて

勉強会を通じたカーネーション収量アップへの取組

カーネーションは6〜7月に定植し、10月〜6月まで収穫する長期栽培品目のため、季節と生育ステージに応じた栽培管理が必要です。近年、栽培施設の環境モニタリング機器が普及し、経験に基づく管理に加え、データによる栽培管理の判断ができるようになってきました。

富浦カーネーション研究会では、環境モニタリング機器類の導入を進め、環境制御技術に詳しいコンサルタントや試験研究機関、種苗・資材メーカー等を交えた勉強会を開催しています。農業事務所は勉強会の運営を支援し、カーネーションの管理方法について研究会員と一緒に検討しています。

勉強会は年に5〜6回開催しており、会員の収量とハウ

ス内環境データ、栽培管理上の問題点等を共有し、意見交換を行っています。前作のデータや会員間のデータを比較しながら、自分の栽培管理を客観的に見直すことで、自ら課題に気付くことができるようになりました。

環境制御技術は主に野菜類で検討され、花き類での活用例は少ないのが現状です。勉強会を通し、カーネーションにおける環境制御技術の活用方法について検討を重ね、地域への普及を図ります。



ほ場での意見交換の様子

山武地域の稲WCSの取組について、視察と座談会を行いました！

山武地域の稲WCS等の取組みは、特に山武市内では茎葉型専用品種が稲WCS取組面積の97.5%（令和6年実績）を占め、耕畜連携の意識が高いことが窺えます。そこで安房地域の水稲農家、畜産農家、関係機関を含め22名で令和7年2月28日に視察に行ってきました。

最初に芝山町の酪農家で、稲WCSやコスト低減のために使っているエコフィード給与の状況を視察しました。

次に会場を移動し、耕種農家主体としたコントラクター、山武市職員、山武農業事務所職員と座談会を行いました。市内の取組は山武市が大きな役割を果たしており、耕畜連携が円滑に進むよう、定期的な会議開催や需給調整等のほ

か、市単独の補助金を確保し、取組面積拡大にも貢献していることがわかりました。また機械更新のための資金確保や早生の茎葉型専用品種の収量向上など、県全体の共通課題に対してどのように取り組んでいるかもわかり、有意義な座談会となりました。安房地域の参加者からは「山武市の取組は関係者でよく連携できており、見習うべき」という声が聞かれました。

農業事務所では、安房地域の耕畜連携について関係者が先進事例を参考とできるように、今後も機会を設けていきます。



座談会の様子

令和7年春の叙勲・褒章について

旭日単光章
川名正幸さん

館山市酪農家の川名正幸さんは、(有)川名デリーの代表取締役として「土づくり、草づくり、牛づくり」をモットーに、堆肥の利用、自給飼料生産、乳牛の改良を柱とした循環型酪農を長年実践しています。

パートナーの初江さんの献身的な支えもあり、常に経営改善を意識しながら、酪農の原点を大事にし、地域の酪農を牽引してきた実績が評価されました。このたびはおめでとうございました。



川名正幸さん

黄綬褒章

黒川幹さん

館山市育種家の黒川幹さんは、(株)クロカワストックの代表取締役として、安房地域の特産切り花であるストックの育種を行っています。アイアンシリーズを代表とする数々の画期的な品種を世に送り出し、県内外の産地振興に大きく貢献されました。

受賞に際し「驚いた、まだ62歳、今後も産地のために品種育成と種子の供給を続けたい。」と意欲を話して下さいました。後継者の育成にも尽力されており、今後のご活躍も目が離せません。このたびはおめでとうございました。



黒川幹さん

第63回千葉県青年農業者会議
プロジェクト発表の部

稲葉陽(あきら)さん

令和7年1月22日(水)に千葉県教育会館で開催された千葉県青年農業者会議において、農業経営体育成セミナーの総合研修受講生である稲葉陽さん(南房総市・養鶏業)が、自身の経営に関する課題解決に取り組んだプロジェクト発表を行いました。

稲葉さんは、平飼い養鶏を営む中で、傷卵や汚卵の発生が多くなるという問題に直面してきました。これらの卵は商品価値が下がるだけでなく、処分や分別の手間が増えることで作業効率の低下も招きます。その原因のひとつとして、鶏が採卵箱以外の場所に卵を産んでしまうことが挙げられます。

そこで本プロジェクトでは、鶏がより自然に採卵箱を利用

できるような、仮設の採卵箱を設置する試みを実施しました。結果として、採卵箱以外での産卵を完全に防ぐには至らなかったものの、現場の様子を見直すきっかけとなり、傷卵の活用方法の検討など、今後の経営における課題整理に大きく役立ちました。

惜しくも受賞は逃しましたが、県担い手支援課鈴木審査委員長からは、「発表内容、発表方法ともに優れていた」との評を受けました。稲葉さんの今後の更なる実践に期待が高まります。



稲葉さん発表の様子